



看護学科

渡邊 千登世 教授

【研究分野】 看護情報学、臨床知識

【キーワード】 看護情報、診療ガイドライン、患者状態適応型パス、標準看護用語、褥瘡ケア

【U R L】 https://researchmap.jp/chitose_watanabe

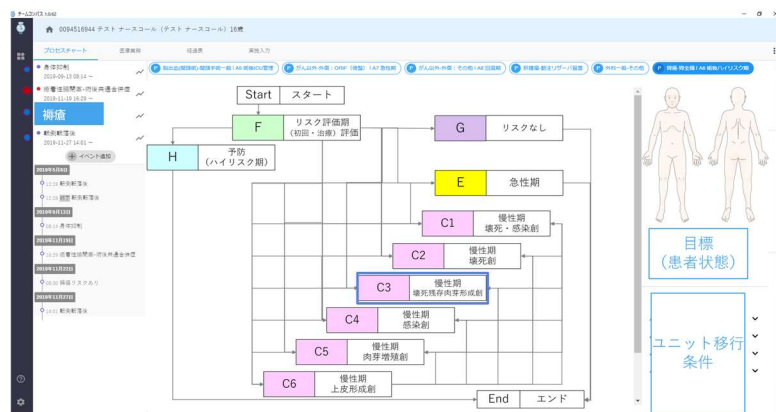

研 究 概 要

診療ガイドラインはチーム医療における適切な判断を導き、診療結果のばらつきを減少させることを目的としています。しかし、これらのガイドラインの臨床現場や在宅医療での実際の活用はまだ十分ではありません。特に、褥瘡予防および管理においては、DESIGN-R®2020という創状態評価ツールを使用して、褥瘡の正確な評価と創状態に応じた局所管理が推奨されていますが、その判断が難しいとされています。そこで、これをチーム医療で効果的に活用するためには、情報テクノロジーの導入が重要と考え、臨床知識を構造化し、「褥瘡局所管理」の患者状態適応型パス（PCAPS）コンテンツを開発しました。このコンテンツは、チーム医療支援ツール「チームコンパス（デジタルパス）」に統合されており、現在、急性期病院での導入が進行中です。今後は、大学と急性期病院とが共同で、デジタルパスを用いた褥瘡ケアの有効性を評価する予定です。

研 究 紹 介

・患者状態適応型パス（PCAPS）コンテンツの開発

サービスエクセレンス総括寄付講座研究会に参加している、3大学と10病院が共同で多くのコンテンツを開発してきました。褥瘡コンテンツは専門性の高い内容であり、認定看護師が中心となり開発し、多施設の病院の医師や薬剤師が内容を検証しています。



© 2021 東京大学 サービスエクセレンス総括寄付講座

・急性期病院での「褥瘡局所管理コンテンツ」導入と評価

現在、急性期病院では褥瘡局所管理コンテンツの導入と運用について検討しています。このコンテンツの導入後、参加施設での褥瘡の治癒促進を含む有効性の評価を実施する予定です。

講 座 テーマ 紹 介

- ・臨床知識の構造化「患者状態適応型パス」とは
- ・看護DXのための標準看護用語-看護実践用語標準マスターについて
- ・ガイドラインに基づく褥瘡ケアの実践を目指した情報テクノロジーの活用

アピールポイントなど

- ・質の高い褥瘡ケアを実施するためには、患者の褥瘡状態とその推移を可視化し医療チームで情報共有する必要があります。新たに開発した褥瘡局所管理のコンテンツが、チーム医療の質に貢献できることを期待しています。
- ・「チームコンパス（デジタルパス）」の導入により、多くの施設で看護記録にかかる超過勤務時間が削減され、経済的な効果も認められています。現在、県内で「チームコンパス」の導入を検討している施設や、看護のデジタル変革（DX）に興味のある方々からのご連絡をお待ちしています。